

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000138		
法人名	株式会社 ラ・サルーテ		
事業所名	グループホームよろこび よろこび館(A棟)		
所在地	〒028-5641 岩手県下閉伊郡岩泉町門字水上29-19		
自己評価作成日	令和6年9月25日	評価結果市町村受理日	令和6年12月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所から7年目を迎え4月に新体制としてスタートしました。 今までの介護をもっと心のこもったものにしていくため職員間で話し合い業務の見直しを行いました。 2ユニットが毎月の目標をたて日々の業務に取り組んでいます。 多くの地域の皆様にグループホームよろこびを知っていただくため認知症カフェを開催する予定です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

岩泉町西部の国道沿いの高台に位置し、周囲を緑の山々に囲まれた自然環境豊かな場所に立地している。2ユニットの事業所は、開所から7年目を経過した。昨年4月に理念を見直し、利用者の気持ちに寄り添った支援に努めている。ほとんどの利用者が協力医療機関である済生会岩泉病院から月2回の訪問診療を受診しており、看護師職員の存在とともに安心感を得ている。町内の特養や老健施設との連携もよくとれ、重度化した場合などに住み替えが迅速に進むように支援している。食事は、食材の購入から献立・調理まで職員が担い、地元産の野菜、果物をふんだんに利用し、利用者の意向を聞きながら提供している。町とは、地域包括支援センターとの定期的な情報交換や、「ぴーちゃんねつ」と呼ばれる電話型のIP端末を設置し、町からお知らせや避難指示など配信されているほか、この端末を利用して利用者と家族がテレビ画面で会話を楽しんでいる。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび よろこび館(A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で考えた理念を朝礼の時に皆で声を出して読んでいる、社内研修で取り上げ共有している。	令和5年4月に職員の意見を反映して事業所の理念を「笑顔で相手の気持ちに寄り添い思いやりの心」に見直している。理念を共有・意識づけするため朝礼で唱和し、掲示したり研修を実施しており、各ユニットは毎月目標を作成しながら介護に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元での買い物や散髪、地区の行事(歳末助け合い)等への参加を通じて交流に努めています。	地域の自治会に加入しており、地区10班の回覧板で事業所の広報を回覧している。地域の催し物を見学し、町主催の認知症カフェにも参加している。令和6年11月には、事業所主催の認知症カフェを開催する予定としている。	地域に溶け込むように、地域との関わりを増やすように活動を促進したいとしている。事業所が日常的に地域の方々と交流していくことを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区で行っている認知症カフェへ参加し地区の方々へ認知症の方と交流して頂き施設を身近に感じていただくよう努力しています。 11月に認知症カフェを開催する予定がある。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の方々一人ひとりのお話や意見、感想を聞きながらよりよい施設づくりに取り組んでいます。	委員は、3地区の自治会長、民生委員4名、消防分団長2名、家族代表、地域包括職員の計10名となっている。令和5年7月から集合での会議を再開し、運営状況や今後の活動報告、意見交換を行っている。家族の意見を行政に伝え介護券の利用改善に繋がっており、意見を参考に11月には認知症カフェを事業所主催で開催する予定となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケア会議を通じ行政との連携に努めています。週に一度は担当者が役場に行き情報交換や相談をしている。	町独自の『ピーちゃんねっと(TV電話)事業』を活用し、連絡を取っている。TV電話には町や公共施設からのお知らせや災害情報が配信される。さらに、週1回、担当者が役場に出向いて情報交換や相談を行っている。利用者の支援に関する相談では、助言を受けて医療機関の協力を得た事例もある。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび よろこび館(A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の自主性を可能な限り尊重し見守りや介助を行うことで行動を制限しないように心がけている。散歩の時間以外にも希望を聞き、草取りや外気浴を自由にしている。	玄関は防犯のため、18時30分から翌朝6時まで施錠し、日中は施錠していない。ユニット会議で身体拘束禁止の研修を実施しており、令和5年度には、声掛けでスピーチロックとなる「だめ」という言葉が多く聞こえたため、「言い換えの言葉」の資料を活用し改善に取り組んでいる。変化が見られない職員には、管理者などのリーダー職員が個別で指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や、関連記事に目を通すこと等、学ぶ姿勢を維持することによって利用者様の変化に気づけるように心がけている。ミーティングで取り上げ話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で取り上げ全員で学ぶようにしているがこれからも定期的に行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明し家族に理解していただけるよう努めている。 疑問が生じたときは後日でも話を聞き説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にアンケート用紙を配布し意見を聞き運営に反映するよう努めている。	家族が面会で来所した際やアンケート用紙を配布して意見を聞いている。その中には請求書の送付をメールにしてほしいといった要望があり改めている。各ユニットのリーダーやスタッフが聞いた内容は、管理者やケアマネジャーに伝わる仕組みとなっており、それらを運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで出た課題などを聞き「まずは実行してみる」できないことは、また話し合っに行こうと伝え反映してくれている。	毎朝の朝礼や毎月のユニット会議で、管理者が職員の意見や提案を聞き、職員と話し合いながら支援の方法を調整している。職員の提案に基づき、タオルウォーマーの購入やテラスの設置も行われている。また、年に2回は社長との個別面談が行われ、各職員の要望を把握している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームよろこび よろこび館(A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の不安なことや意見をしっかり聞き、やりがいを持って働いていけるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の参加や資格取得時の支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や日々の業務の中で情報交換等をしている。 春には施設訪問し参考にさせてもらい現在継続している。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が入居してから落ち着かれるまでは特に不安なことや要望等を会話や関わりの中からも聞き取り、安心をもっていただけるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後の様子を電話等で伝えるようにしている。 皆が協力して行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画通りで問題はないかを確認しあって対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来るこ得意なことを活かした役割を持ってもらい生活できるよう努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび よろこび館(A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月請求書送付時に写真入りのお便りで近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	席を一緒にしたり、棟のなかでいろいろ工夫している。 隣の棟の行き来もある。	入居前に事前面接を行い、本人や家族から地域での関係性なども含めて情報を収集している。家族が来訪した際には、一緒にお墓参りに行ったり、自宅外泊をする方もいる。友人や知人とは、踊りの会やテレビ電話で交流している利用人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の同士が気持ちよく仲良く過ごせるように見守り、間に入ったりしながら声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話での相談が主だが相談を受け支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日生活する中でのお話や行動等より把握したりしなるべく希望に添えるようにしている。草取りや散歩、ラーメンが食べたい、あんこが食べたい等の希望を聞いて提供している。	普段のかかわりの中で声をかけ、意向の把握に努めている。言葉や表情から意向を推し量り、それとなく確認するようにしている。意思疎通が難しい方には、笑顔や不快な反応などを観察しながら対応し、家族や関係者からも情報を得るよう心がけている。	利用者一人一人の思いや暮らし方の希望、意向に関心をはらい、全職員がその把握に努めることを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス事業所からの情報や本人や家族との会話等からも把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の現状に合わせた状態を把握し、散歩へ誘ったり制作物を一緒に作ったりしている。洗濯物をたたむことが得意な方には中心となって手伝っていただいている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび よろこび館(A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	棟会議や日々の申し送りなどで利用者様の情報を共有し観察、見守り、声掛けを行いチームでの支援に努めている。排泄の改善や対応の仕方、水分の摂り方等身体状況を考え、その都度話し合って対応している。	介護計画は計画作成担当者が作成し、カンファレンスなどで全職員が確認した後、修正を加えたうえで家族の承認を得ている。計画には本人及び家族の意向を反映しており、モニタリングは3ヵ月ごとに行い、介護度の更新や変化に応じても見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化や気づきを記録し職員間で共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の状況に合わせ緊急受診の対応等柔軟に支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院への外出やボランティアの踊りの訪問等楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療のほかには、急激な体調変化など、リーダー、ナース、ご家族に報告相談し早めの受診を心がけている。	利用者全員が協力医療機関である済生会岩泉病院から月2回の訪問診療を受診しており、職員の負担も軽減されている。薬剤師が訪問診療のたびに訪れ、服薬の説明をしている。歯科は近くの歯科医院に通院している。精神科、眼科、整形外科などに通院している利用者は今のところいない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に連絡相談を行い医師かかりつけ薬剤師との連携をしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホームよろこび よろこび館(A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院との連携を密にし情報交換を大事にしています。普段から、医師、看護師、相談員、薬剤師と顔の見える関係作りに努め、いつでも相談できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にも重度化した場合ホームで出来ることを説明している。医療や他施設の情報を伝えしっかりと考えていただくようにしている。	事業所では看取りは行っておらず、入居時に退居までの流れを説明し、介護度3になった場合、または自分で立位や入浴、食事が困難になった段階で医療機関や特養施設などの他施設の情報を伝えて入所申込みを勧めている。それまでは可能な限り生活支援を行い、家族には状況の進行状況を説明しながら、意向の確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	まだまだ実践力が足りていないと思われるので社内研修を行い自信を持って対応できるよう努めていきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災避難訓練を行っている。地域の防災訓練は今年は台風の接近で中止となったが出来る限り参加したい。	年2回火災避難訓練を実施している。うち1回は消防署に立会いを依頼している。事業所に防災士の資格を持つ職員が2人おり、防災対策や避難訓練の先頭に立っている。運営推進会議の委員に消防団と自治会の代表が就任していることから、地域の協力を得られるよう、会議の日に合わせて訓練を実施することも検討している。食料、水、灯油ストーブ、発電機などを備蓄している。	運営推進会議には地域の方々が多数参加している。その会議に合わせて訓練を行い、地域の方々の協力体制を築いていくことを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの思いや希望、その方の性格等も職員間で共有し関わり方に注意している。	事業所全体でスピーチロックの改善に取り組んでいる。「ちょっと待って」という言葉を「〇分ほど待ってもらえますか」や「〇〇が終わって行くので、待ってください」などに言い換えて対応するようにしている。対応が難しい職員には個別指導を行い、適切な対応を促している。	
----	------	--	---	---	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび よろこび館(A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	友人や知人に電話したい、ドリンクやパンが食べたい等一人ひとりの希望に可能な限り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	草取りをしたい、散歩したい、少し横になりたい等、本人の過ごし方に合わせて過ごしていただけるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望する化粧水やクリームを購入したり、散髪の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえのお手伝いや誕生日などにはその方の好みをお聞きし完食して頂くよう努力しております。	職員が献立を作成し、ユニットごとに調理している。食材は町内のスーパーなどから購入している。家族、近所の人、運営推進会議委員などから野菜、果物、お菓子など差入れも多くあり、活用している。誕生会などの行事には利用者の希望を聞いて提供している。ラーメンが多い。食器拭きをほぼ全員の利用者が手伝っている。5月には早坂高原の道の駅で約半数の利用者が外食することができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を毎日チェックし、食べやすいような形態にしたり、本人の食事にかかる時間に合わせたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは声掛けと本人の力に応じておこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁が少なくなっている人にはパッドを小さくする、布の下着で対応してみる等、職員間で情報共有しそのつど相談している。	排泄チェック表でパターンを把握し、見守りや声掛け、誘導を行い、多くの方がトイレを利用できている。中には、向精神薬の減薬や「おしゃれをしたい」気持ちを生かした介護により、自力でトイレに行き排泄できるようになった利用者もいる。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび よろこび館(A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて軽い運動や散歩をしたりして取り組んでいます。 必要な場合は看護師に相談し排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望を聞いたり、それぞれの入浴のタイミングを考えながら声掛けしている。入浴剤を使用して入浴を楽しめるようにしている。	入浴は個浴で、1人週2回を基本としているが、利用者の意向を踏まえタイミングに合わせて声掛けしている。入浴中は、リラックスして昔語りや歌を披露したり、楽しいひと時を過ごしてもらっている。必要に応じ入浴剤を使用したり、脱衣場の温度を適温に保つように配慮している。バスタオルをかけるなど羞恥心へ配慮して個人の尊厳を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温に応じて室温調整し、部屋の明るさや家具の配置等、その人の希望や状態に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の薬のセットに間違いがないか、ダブルチェックしています。 利用者がどんな薬を服用しているのか見やすいように薬の引き出しに書いて貼ってあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段は食器拭きや洗濯物をたたむなど出来ることを手伝って頂くようにしています。 季節に応じて花見ドライブに行き外食したり年中行事、誕生会などやり楽しんでいただくようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出や、散歩やドライブに出かけたりしている。	天気の良い日は、ほぼ全員の利用者が事業所周辺を散歩しており、玄関先にベンチを置き、数人で話をしたりお茶を飲んだりしている。花見で早坂高原の道の駅までドライブに出掛けるなど外出支援をしている。3、4人の利用者は毎月家族に連れられ自宅で外泊している。希望に応じて美容室や自宅へ外出する方もおり、年末には地域の歳末助け合いの催し物を見学する方もいる。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームよろこび よろこび館(A棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が食べたりものや飲みたいものを担当者が聞き、買ってきて召し上がっていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の状態や様子などを広報と一緒に手紙で家族に伝えています。 時には家族や友人と携帯電話や電話で話す方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁飾りを変えています。利用者の方も一緒に作ったりレクリエーションの時に出来ることなど手伝ってもらっています。	玄関、事務室を挟んで左右にユニットが分かれ、ホールから全室の出入りが見渡せる配置となっている。各ユニットとも壁の色はクリーム系で落ち着いた雰囲気である。エアコン、加湿器、空調で24時間快適に保たれている。壁面には季節の花や利用者の作品が飾られ、居心地のよい空間となっている。高台のため雄大な自然が眺望できる恵まれた環境にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを置いて好きな時間に過ごしてもらったり、居室で好きなテレビを観たり、思い思いの居場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望でテレビを置いたり、家族の写真を飾ったりしている。自分の希望で居室の配置を変えたりしている。	居室にはベッドとチェストが備え付けられ、エアコンや加湿器、24時間換気装置により、適温、快適に保たれている。利用者はテレビや家族写真などを持ち込んでおり、ベッドやチェストの位置などは、本人の希望を聞いて配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況を考え安全に移動や排泄ができるよう居室の場所も考えている。		